

前回までの振り返り

懇談会の目的

懇談会の目的

部活動の地域移行に限らず、部活動の更なる適正化を含めた「本市のこれからの部活動」を検討していく。



部活動の現状や課題等を共有し、部活動に関する意見を伺い、今後の取組の参考とする。

これまでの懇談会

これまでの懇談会

第1回 令和5年11月28日

主な内容

- (1) 国の動向と部活動の意義、他都市の状況
- (2) 本市の部活動の現状
- (3) 本市のこれまでの取組
- (4) 本市における今後の進め方

第2回 令和6年3月19日

主な内容

- (1) 部活動アンケートの結果（単純集計）について
- (2) 「休日の部活動の地域移行」拠点校の実践研究報告
- (3) 関係団体への意見聴取の報告
- (4) 令和6年度の予定について

第3回 令和6年9月13日

主な内容

- (1) これまでの取組状況 部活動アンケートのクロス集計
- (2) これまでの取組状況 教員ヒアリング結果
- (3) これからの部活動について

主な意見

【全体的なこと】

- ・現在の状況も踏まえた上で、**10年後の姿を考えていく**必要がある。
- ・部活動は誰のためのものなのかを考えたい。
- ・みんなで**認め合いつつ、どこかで折り合いをつける**。これができたら川崎らしい活動になる。
- ・どこに行きたいかの目的を定めず結果に流されてしまうととんでもないことになる。
- ・部活動の地域移行は難しいが、部活動を考える、よいきっかけとしたい。

【「地域移行」について】

- ・「地域移行」ありきではなく、**部活動そのものをしっかりと検討していく姿勢は大切**である。
- ・世間では「地域移行」という言葉が一人歩きしており、親も子どもも外部から来る指導者や費用負担のことなど不安に感じている。
- ・大会運営の手伝い等であれば地域スポーツ資源も活用できるような気もする。
- ・あまり**地域移行に行き過ぎても全国的にいい先行事例がない**。

【その他】

- ・生徒、保護者、教員の思いが若干ずれている。
 - 生徒は、部活動を**楽しみたい派とうまくなりたい派の二極化**
 - 親は、スキルよりも**人格形成を重視**する傾向
- ・各団体にも指導者はいるが、**教員以外の指導人材の育成が課題**だ。
- ・部活動の意義と活動実態との乖離を感じる。

部活動アンケートの結果 (クロス集計)

部活動アンケートの結果（クロス集計）

1 アンケートの概要

○実施期間 令和5年11月16日（木）から11月30日（木）まで
※生徒と教員は12月8日（金）まで

○対象 生徒：市立中学校の全生徒（29,832人）
保護者：市立中学校の全保護者（29,832人）

2 実施の状況 教員：市立中学校の全教員（1,589人） ※管理職・産休者・育休者・休職者は除く

	対象者数（人）	回答者数（人）	回答率（％）
生徒	29,832	23,395	78%
保護者	29,832	13,040	44%
教員	1,589	1,364	86%

3 回答者の年代

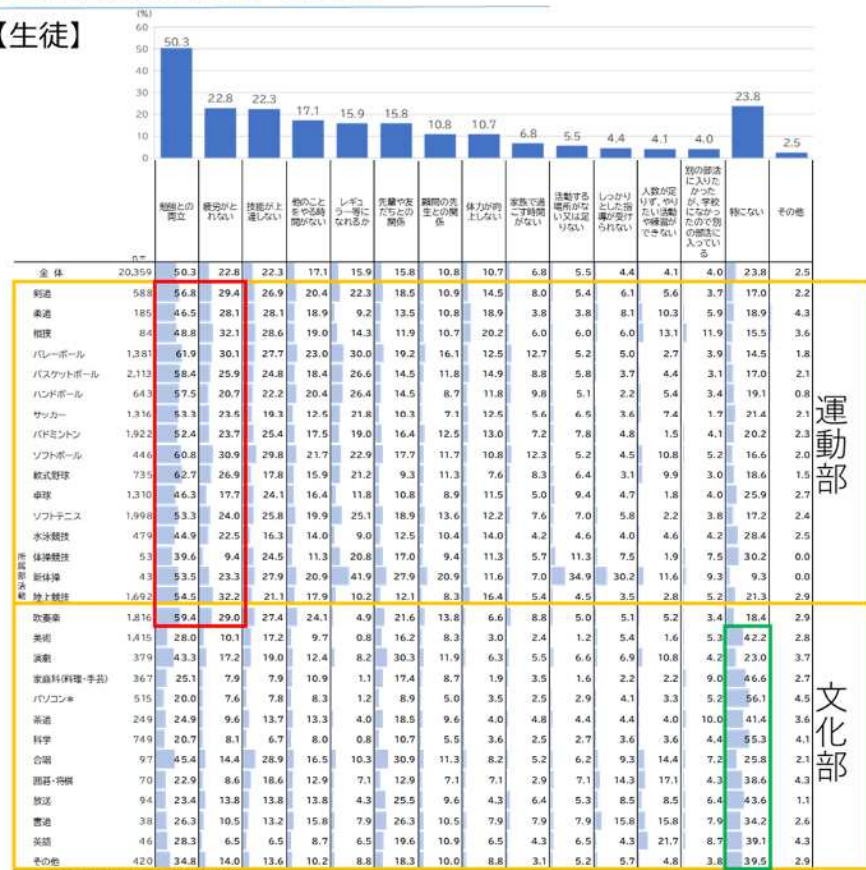
○生徒	中学1年		中学2年		中学3年
	35%		33%		32%
○保護者	30代		40代		50代
	8%		68%		23%
○教員	20代	30代	40代	50代	60代
	25%	29%	23%	16%	7%

※小数点以下第1位を四捨五入しているため、内訳の合計は必ずしも100%とにならない。

部活動アンケートの結果（クロス集計）

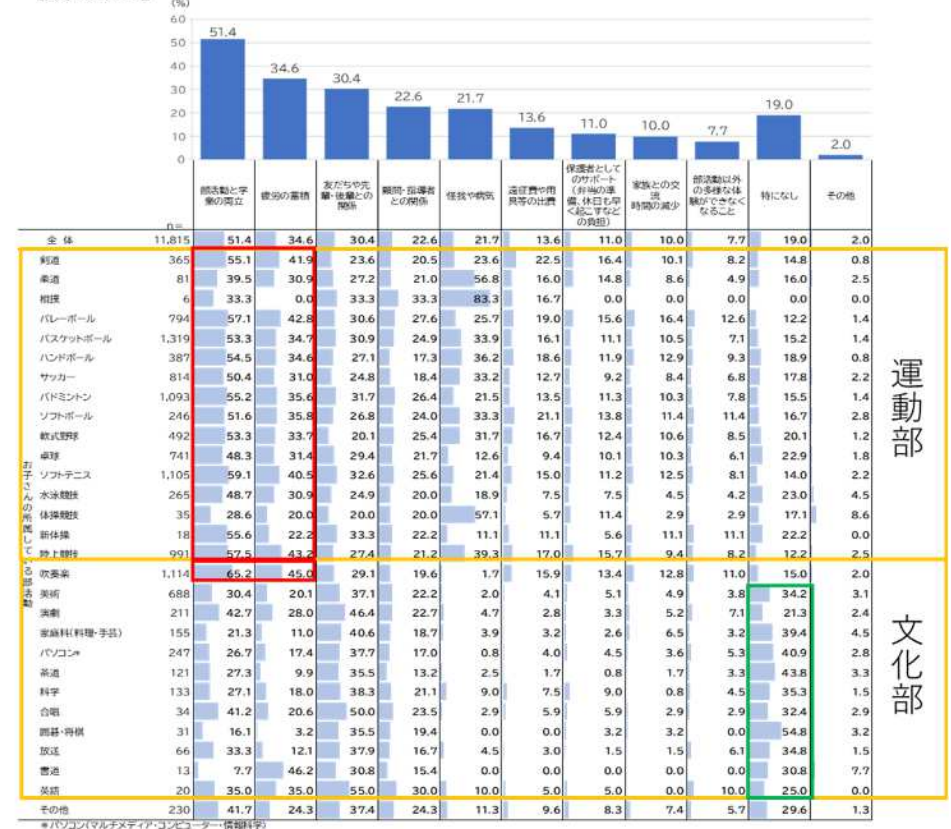
1 部活動別の困りごと・心配ごと

【生徒】



2 部活動別の困りごと・心配ごと

【保護者】



【所属部活動別部活動での困りごと・心配ごとを見ると】

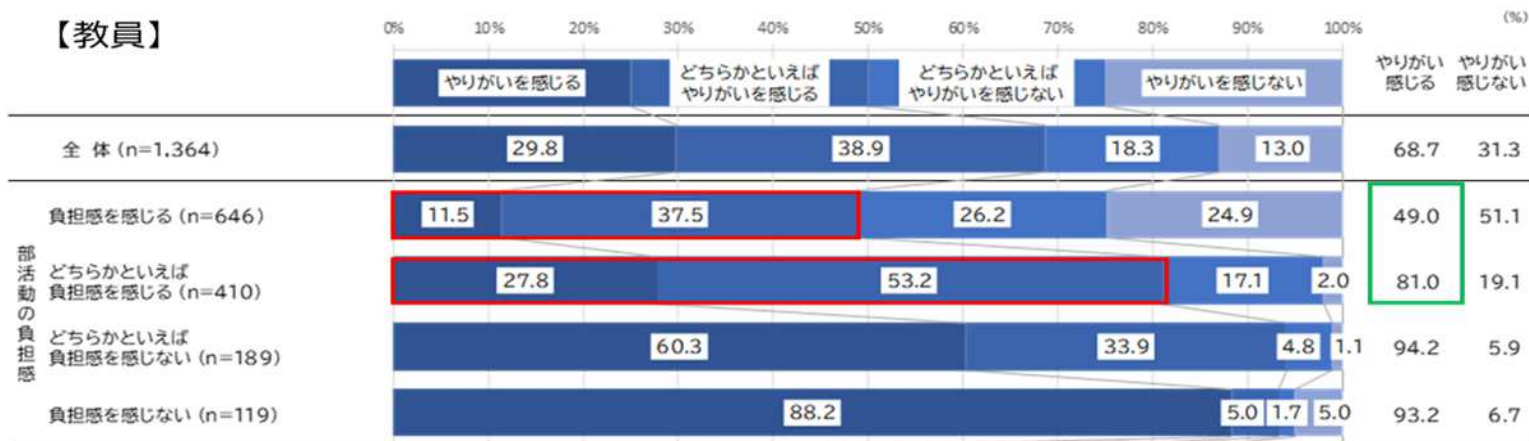
- ・運動部と吹奏楽部が、学業との両立や疲労の蓄積を心配していると回答した割合が高い。
- ・文化部（吹奏楽部を除く。）は「特になし」という回答も多い。

【所属部活動別部活動での困りごと・心配ごとを見ると】

- ・運動部と吹奏楽部が、学業との両立や疲労の蓄積を心配していると回答した割合が高い。
- ・文化部（吹奏楽部を除く。）は「特になし」という回答も多い。

部活動アンケートの結果（クロス集計）

3 部活動での困りごと・心配ごと



【部活動の負担感別でやりがいをみると】

・負担感を感じながらも「やりがいを感じる」と回答した割合は高い。

4 部活動での困りごと・心配ごと



【指導経験年数別で部活動の負担感をみると】

・どの指導経験年数においても「日常の学校生活とのバランス」や「休日の活動があること」と回答した割合が高い。

・指導経験年数が1年未満の場合、「専門外の種目を教えること」に負担感を感じている割合が高い。

部活動アンケートの結果（クロス集計）

6 今後の部活動に対する要望

【生徒】その他と回答した自由記述の抜粋 ※（ ）内は所属部活動

「気軽に参加」

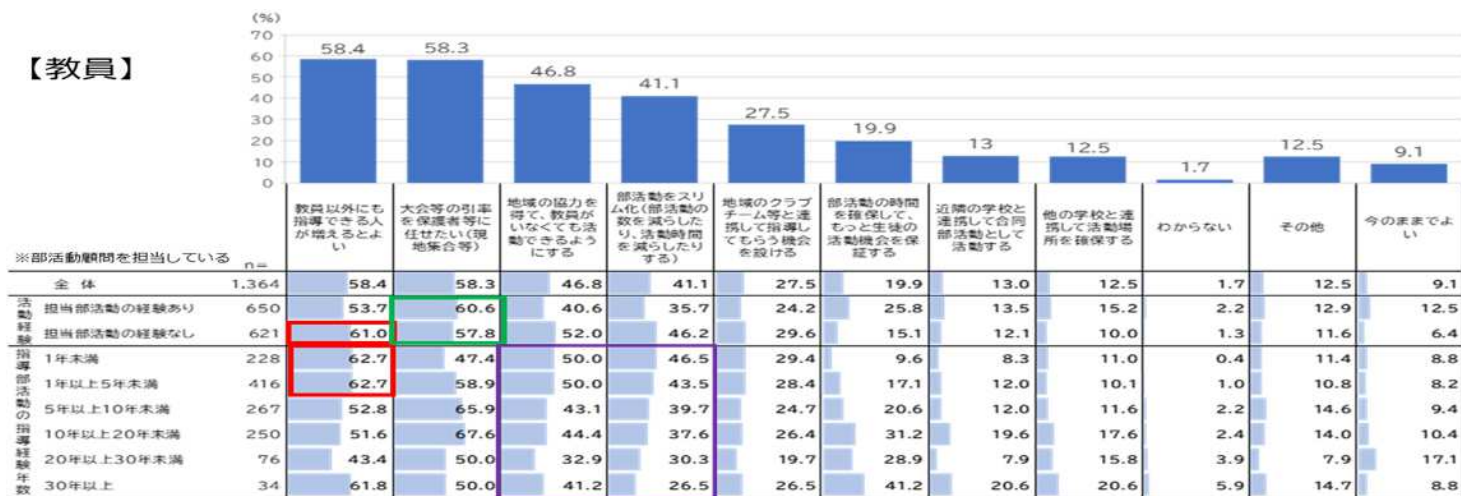
- ・気軽に用事で休みたいときに休めない（軟式野球）。
- ・習い事と両立できるようにどの部活でも気軽に早退、欠席できるようにしたい（卓球）。

「気軽に楽しく」

- ・もっと**初級者でもやれる**ようにさせてほしい。もっと気軽にやらせてほしい。日数をかなり減らしてほしい。同好会とか部活以外の集まりもほしいなと思う。いろんな部活動がほしい（ダンスとか高校にあるような）（吹奏楽）。
- ・**本気でやりたい人は本気でやれるし、気軽に楽しみたい人は楽しむ部活が理想**（美術）
- ・**気軽にやる人達と、本気でプロを目指す人達**で活動日数を変えてほしい（バドミントン）。
- ・**楽しみながら行うけど、やる時はしっかりと真面目にやる部活動にしたいです**（バスケット）。
- ・今のまま、**みんなで楽しく絵を描いたりするの**もいいけど、たまーにでいいからイラストについての勉強をしたり、基本について学んだりしたい（美術）。

7 今後の部活動に対する要望

【教員】



【活動経験・指導経験別で部活動への要望を見ると】

- ・「担当部活動の活動経験がなし」、指導経験が「5年未満」の場合、「教員以外にも指導できる人が増えるとよい」と回答した割合が高い。
- ・活動経験の有無にかかわらず「大会の引率を任せたい」と回答している割合は高い。
- ・指導経験が浅いほど「地域の協力を得て」や「部活動のスリム化」の割合が高い。

教員ヒアリング結果

実施期間	令和6年2月19日（月）～3月4日（月）
実施校	大師中学校、平間中学校、東高津中学校、白鳥中学校（拠点校）
実施教員数	実施校の教職員総数152名のうち65名（運動部53名、文化部12名）
実施方法	「部活動運営に関する業務項目とヒアリング内容」を見ながら、個人面談方式（1人10分程度）でヒアリング

- | | |
|------|---|
| 質問内容 | <ul style="list-style-type: none">○現在行っている部活動で負担と覚じることはありますか（どんな事ですか）。○外部（地域）指導者が入ったとして、任せられることはありますか。○外部（地域）指導者に任せられないことはありますか。○休日の部活動の地域移行が難しいと覚じる理由は何ですか。 |
|------|---|

ヒアリングからみえたもの

- ・平日と休日の部活動指導について、一貫性を確保する必要がある。
- ・外部に任せられることは「技術指導」と「練習メニューの作成」が最も多い。
- ・外部に任せられないことは「生徒指導」に関わる業務が最も多い
- ・「休日の部活動の地域移行」について、指導人材と費用負担に関する不安感は大きく、難しい課題として認識している。
- ・大会運営への教員の関わりについても難しい課題と認識している。